

【遊びの経過】

スポンジや積み木の乗り物を作って遊ぶのが大好きな子どもたちは、次から次へいろいろな乗り物の運転をしたり、その中でご飯を食べたりなど、楽しい遊びを友だちと考えられるようになった。次は船を作って遊ぼうと気持ちが高まっている。

【ねらい】

ごっこ遊びを通して、友だちとのやりとりを楽しむ。

○幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助

★子どもの思いをつなげる活動とするために、作って遊べるコーナーを用意しておく。
(保育室に船ごっこができる空間を設定、魚つり等ができるようにカップや画用紙の準備)

○友だちと一緒に船ごっこを始める。

ねえ、どこに行くの。【共感】

つれたね。一緒に食べよう。【提案】

出発します。【意欲】

魚つりしよう。【意欲】
【共通のイメージ】



■柵やダンボールを使って、大きな船を作り、たくさんの子どもが中に入って遊べるようにする。

■舵にビニールテープを巻いたり、船に好きな色を塗ったりできる環境に気付き、子どもたちがそれを使って遊びを進めることができるよう声をかける。

○船の中でお魚パーティーと誕生会をして遊ぶ。

お魚がいっぱいだね。【喜び】

きょうは、お誕生会です。【提案】

みんなで食べようよ。【共通の目的】

もっと魚をとろうよ。【提案】



■船の中での遊びが少しずつ広がっていく様子を見守り、友だちに自分がこうしたいという思いを伝えている姿を認めていく。

■船の中で船長をする順番や魚つりをする場所取りなどで、思いがぶつかる時は、仲立ちに入り必要な言葉かけをしていく。

★望遠鏡や水中ゴーグルなどを使って遊べるように、道具の場所を知らせる。

○海に潜って魚をとって遊ぶ。

やったあ、いっぱいとれたよ。【満足感】

ぼくもとれたよ。【喜び】

よかったね。【喜び】
【共感】

いっぱい食べられるよ。【喜び】



■望遠鏡を使って船の中からのぞくだけでなく、水中ゴーグルを使って海に潜って魚をとっている子どもたちの新たな遊び(子どもたちの気付き)を認め、一緒に楽しんでいく。

■明日も引き続き遊べるように船をそのまま残しておくことを伝え、遊びが続けられる安心感や期待感をもたせるようにする。

【考察】

ごっこ遊びをしながら友だちとのやりとりをして言葉を覚えたり、船や海の中でのイメージをふくらませたりしながら遊びを楽しんでいた。子どもたちの思いや考えを保育者がみとり、道具等の環境を再構成したことにより、子どもたちが夢中になって遊ぶ姿が見られた。

今後も子どもたちが自分たちの遊びを深め広げていけるような環境の再構成や適切な援助が行えるようにしていきたい。